

# 一般社団法人日本解剖学会 2020(令和2)年度第4回常務理事会議事録

日時：2020(令和2)年12月12日(土) 11:00～13:30

場所：A P 東京八重洲通り(12階Jルーム) およびWebによる開催

出席者：八木沼 洋行(理事長)、渡辺 雅彦、西 真弓、野田 泰子、牛木 辰男(以上、常務理事)、松崎 利行、阪上 洋行、竹林 浩秀(以上、常任幹事)、宍戸 基行、中村 聡(以上、口腔保健協会)

## I. 会議記録の確認

以下の会議記録の確認がされた。

- (1) 2020(令和2)年度第5回常務理事会(2020(令和2)年9月12日開催)議事録(案)

## II. 報告事項

### 1. 庶務報告

#### (1) 会員異動報告

資料に基づき、以下の通り報告された。

令和2年9月分

入会者 正会員 6名、学生 1名

退会者 正会員 6名、学生 2名

令和2年10月分

入会者 正会員 4名、学生 2名

退会者 正会員 6名

逝去会員

糟谷 清 氏(日高町立富川国民健康保険診療所・所長/正会員) 令和元年11月25日逝去(満58歳)

河西 達夫 氏(弘前大学・名誉教授/名誉会員) 令和2年11月5日逝去(満94歳)

新規就任教授

山口 淳 氏(千葉大・医・機能形態学・教授 平成29年1月1日就任)

#### (2) 学会宛文書類について

資料に基づき、学会宛文書類について以下の通り報告された。

- ① 通知・依頼：日本医学会より「医療機器及び体外診断用医薬品のリスク管理計画の策定及び公表について」他79件
- ② 書籍・定期通信 他：(独)日本学術会議より「学術の動向 2020.9」他18件

#### (3) 支部代議員会報告

資料に基づき、第66回東北・北海道連合支部代議員会(令和2年9月6日(日)Web開催)、第108回関東支部代議員会(令和2年10月31日(土)Web開催)、第80回中部支部代議員会議(令和2年10月31日(土)Web開催)での議事録の内容が報告された。東北・北海道連合支部からは、同日開催された学術集会もWeb開催となり、活発な質疑が行われたことが報告された。

#### (4) 次期役員選挙報告

資料に基づき、次期役員選挙の結果が報告された。オンライン選挙であったが、投票率が37.26%と低調であったので、次回は投票締め切り1週間前と前日などにリマインドメールを送信すること、また科研費応募書類作成時期重ならないように11月上旬から中旬に投票期間を設けることなどの意見が出された。

#### (5) その他

特になし。

### 2. 編集報告

#### (1) 名簿作成ワーキンググループ立ち上げについて

資料に基づき、会員名簿2022作成ワーキンググループが立ち上げられ、12月10日にWeb会議が開催されたことが報告された。委員長は西 真弓 先生、委員は榎原 智美 先生、金井 克光 先生、松田 賢一 先生で構成され、2022年1月の発送を目指して作業をすすめる。予算については、特別会計(名簿作成積立金)で不足する分を特別会計(特別事業積立金)で支出できないか理事会で検討することとなった。

- (2) その他  
特になし。

### 3. 企画・渉外報告

(1) 2020(令和2)年度奨励賞について

資料に基づき、今年度の奨励賞申請者の中で、5名が奨励賞の受賞候補者であることが報告された。また、委員会で以下の意見が出されたことが報告され、理事会に諮ることとした。①肉眼解剖に関する論文については、倫理員会で承認されていることが論文に記載されていない場合は審査対象としない旨募集要項に記載すべきである。②今後の研究展開の記載が不十分な申請がみられるので、ある程度の基準を示した方が良い。

(2) 一級ならびに二級認定技術者審査結果について

資料に基づき、一級技術者2名の試験合格、二級技術者9名の資格審査合格の判定結果が報告された。

(3) 2021(令和3)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、第126回日本解剖学会総会・全国学術集会と第98回日本生理学会大会 合同大会が新型コロナウイルス感染拡大の影響によりWeb開催としたこと、またその準備状況が報告された。

(4) 2022(令和4)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、第127回日本解剖学会総会・全国学術集会の準備状況について、大阪大学の箕面新キャンパスでの現地開催とWebでのハイブリッド開催が予定されていることが報告された。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、新規加盟学会4学会、緊急提言、旧優生保護法の検証のための検討会報告書、未来への提言などについて報告された。

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、小林 武彦 氏(東京大学)が次期代表選出されたことが報告された。また、生科連からの緊急提言について報告された。

(7) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、伊佐 正 氏(京都大学)の連合代表への就任が報告された。また、脳科連からの緊急提言、および、ヒューマングライコームプロジェクトへ賛同する予定であることが報告された。

(8) 技術職員における現状と課題についてのアンケートについて

資料に基づき、技術職員における現状と課題についてのアンケート解析の結果を受けた要望書について報告された。要望が効果的に伝わるように、要望書の内容と提出先については継続して検討することとなった。

(9) 韓国解剖学会との若手研究者支援事業について

資料に基づき、KAAについては、2021年はJAAよりKAAへ若手研究者を派遣する予定であるが、COVID-19の感染状況をみながら判断することが報告された。

- (10) その他  
特になし。

### 4. 会計報告

(1) 支部学術集会決算について

資料に基づき、第66回東北・北海道連合支部学術集会収支決算について報告された。

(2) 2020(令和2)年度総会・全国学術集会収支決算について

資料に基づき、2020(令和2)年度(第125回)総会・全国学術集会収支決算について以下の通り報告された。大会は誌上開催となり、余剰金については、篠田第125回会頭の意向を尊重し、助成金100万円

を除いた3,916,942円を12月2日付で解剖学会特別事業積立金へ繰り入れた旨、学会事務局より説明があった。

(3) 2020(令和2)年度中間決算書について

資料に基づき、2020(令和2)年度中間決算書(令和2年1月1日～10月31日)について以下の通り報告された。一般会計の支出の部では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い海外交流関係が中止になったことで支出がなく、会議の多くがWeb開催となっていることにより会議費、旅費、交通費の支出が予算よりもかなり少なくなっている。なお、この時点での資料には反映されていないが、特別会計(特別事業積立金)には、12月2日付で2020(令和2)年度(第125回)総会・全国学術集会余剰金が繰り入れられた旨、事務局より補足説明があった。

(4) 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業について

資料に基づき、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業について以下の通り報告された。事業の内容は、各学会のホームページの内容について、国立国会図書館が資料収集を行ってアーカイブ化するものであり、国立国会図書館からの依頼について解剖学会として許諾した。

(5) その他

特になし。

5. 理事長報告

(1) 国際渉外関係について(KAA、APICA、IFAA等)

KAAについては、2021年はJAAよりKAAへ若手研究者を派遣する予定であるが、COVID-19の感染状況をみながら派遣するかどうか判断することが報告された。資料に基づき、APICAについては、2020年の9th APICA(北京)がキャンセルされたこと、そして、2022年はオーストラリアとニュージーランドの学会(ANZACA)が中心となり10th APICAを開催することになったことが報告された。また、IFAAについては、2024年にIFAAがKAA主催で行われる際、JAAはKAAに協力することになっており、その過程でIFAAへの復帰の可能性を探る方針であることが報告された。

(2) 2025(令和7)年度総会・全国学術集会について

資料に基づき、解剖学会、生理学会、薬理学会と合同で学会を開催することを検討していることが報告された。

IV. 審議事項

1. 教授就任による代議員の承認について

資料に基づき、以下の1名の代議員申請が承認された。

山口 淳 氏(千葉大学大学院医学研究院・機能形態学教室)

2. 名誉会員・永年会員の推薦について

資料に基づき、名誉会員の該当者は本年度なかったことが説明された。また、永年会員の推薦対象者が審議された結果、今後、対象者本人の意思と終身会費の納入を確認した後、理事会の審議を経て総会で推薦することと承認された。

3. 申請による代議員について

資料に基づき、申請による代議員申請の状況が説明された。審議の結果、理事会において代議員選出規定申し合わせ事項を説明した後、投票により選出の可否を諮ることで承認された。

4. COVID-19に対する各大学の対応と解剖学教育への影響に関する調査と提言について

資料に基づき、4月と7月に実施したCOVID-19に対する各大学の対応と解剖学教育への影響に関する調査の結果を受けて、肉眼解剖学実習と組織学実習の実施に関わる提言内容について説明された。審議の結果、医学・歯学基礎教育における肉眼解剖学実習の重要性を鑑み、御献体を用いた肉眼解剖学実習の実施を推奨するとの学会の基本的な考え方を明確にするとともに、厚生労働省のビル管理法に基づく必要換気量などを加えた修正案を理事会で提示し議論してもらうことで承認された。

5. 2020(令和2)年度認定技術者功労賞について

資料に基づき、2020(令和2)年度認定技術者功労賞申請者について説明され、審議の結果、理事会で諮ることで承認された。

6. 認定一級ならびに二級技術者申請書一部改正について

資料に基づき、願書の改正点として、① 必要書類のチェック欄、② 審査料入金日の記載欄、③ 学会歴の記載欄、④ 推薦代議員による当該業務従事期間証明書での職名・業務内容等の記載欄の追加と申請書のダウンロード形式のエクセルからワード形式への変更が説明され、審議の結果、承認された。

7. 学会ホームページ一般向けコーナー「解剖学ひろば」掲載記事について

資料に基づき、本資料に基づき、本年10月1日から学会ホームページに公開した一般向けコーナー「解剖学ひろば」への会員からの投稿依頼があり、公開当初、依頼原稿や既に公刊された論文随筆などの転載や再録を中心に考えていたため、一般投稿を想定していなかったことより、アウトリーチ委員会から今後の運用方針などについての検討の依頼があったことが説明された。審議の結果、「ひろば」で公開する原稿は、依頼原稿や既に公刊された論文随筆などの転送や再録を対象とし、投稿原稿を受け付けない方向で運用することで承認され、理事会で意見を聞くこととした。

8. 2023・2024(令和5・6)年度総会・全国学術集会開催校について

資料に基づき、2023(令和5)年度総会・全国学術集会開催校希望について、大和田 祐二 先生(東北大学)から開催希望届けがあったことが説明され、審議の結果、承認された。2024(令和6)年度については未だ届け出がないことより、公募を継続し、理事会で届け出を依頼することで承認された。

9. 死体解剖資格取得申請に関する問題提起について

資料に基づき、死体解剖資格取得申請に関する本学会としての指針案が説明された。審議の結果、理事会で内容を検討してもらい、2月の理事会で最終案として諮ることで了承された。

10. 2021(令和3)年度事業計画案について

資料に基づき、2021(令和3)年度事業計画案について、基本的に本年度と同様の内容であるが、会員名簿作成が新たに追加されたこと、解剖学雑誌の電子化については、電子化の完了にともない事業計画から削除されたことが説明され、審議の結果、了承された。また、会員名簿の作成にともなう180万円程度の追加費用について、会費の値上げによる会員の負担を避けて、一般会計あるいは特別事業積立金から拠出することを、理事会で提案することが承認された。

11. 2021(令和3)年度仮予算書案、ならびに事務委託契約について

資料に基づき、2021(令和3)年度事業計画案について、例年の仮予算書案での予算額は前年度の実績に基づき決められているが、本年度は新型コロナウイルスの影響により、会議費、旅費、交通費などが大幅に減少しているが、現時点では来年度の新型コロナウイルスによる影響が見通せないことより、本年度の予算案に基づき立てられてことが説明され、審議の結果、承認された。また、口腔保健協会からの来年度の学会事務委託再契約について、事務委託費が協会算出基準額となることが説明され、審議の結果、承認された。

12. その他

次回常務理事会

(第1回)

日時 2021(令和3)年1月24日(日) 11:00~13:30

会場 AP品川

次回理事会

(第1回)

日時 2021(令和3)年1月24日(日) 13:30~16:30

会場 AP品川